

ヒロシマを題材としながら、埋もれている名曲を再発見し、生演奏でよみがえらせる取り組みが今年始まる。広島音楽関係者でつくる「ヒロシマと音楽」委員会。17日、広島市の東区民文化センターでのコンサートで1年目がスタートする。(上杉智己)

芸能

ヒロシマの記憶語る名曲

音楽関係者が発掘



能登原由美さん

委員会は1995年の被爆50周年を機に結成。ヒロシマをテーマとする音楽作品のデータ収集に取り組み、こ

川崎は75年、「祈り」の曲・第1哀悼歌」を

今回、第5の「フルートとピアノのための祈りの曲・第5暁の祈り」と、第6の「同・第6夕べの祈り」を演奏する。第6は初演となる。演奏前に川崎自身が「原爆と音楽」をテーマに被爆者自ら音楽表現と向き合う心情を語る。

だ。栗原貞子の詩に福島雄次郎が曲をつけ、元宝塚の葦原邦子が愛唱した「生ましめんかな」も歌う。演奏するのは、広島を中心に活動する音楽家。フルートを土居晃・基町高器楽部顧問、ピアノを浜本恵康・広島大教授が務め、ギター奏者や声楽家も参加する。安田女子高音楽部の生徒約20人も合唱に加わる。

今年から広島で17日13曲を演奏

エリザベト音楽大非常勤講師で同委員会

これまで約1900曲分の作曲年や作曲者などのデータを集めた。聴く機会がほとんどない曲も含まれているため生演奏で再現する。コンサートは「ヒロ

作曲。毎年8月6日の平和記念式典で献花の際に流れる曲だ。川崎は「祈りの曲」シリーズの創作を絶やさず、「第6」まで完成させ

山田耕筰の「ヒロシマ平和都市の歌」「しろばらの」も演奏する。それぞれ広島市出身の詩人大木惇夫、長崎で被爆した医学博士永井隆の詩に作曲した作品

の能登原由美委員長は「埋もれた作品を多くの人に知ってもらいたい。それぞれの曲にヒロシマの記憶が詰まっている。世代を問わず出合っしてほしい」と思いを語る。



フルートの土居晃



ピアノの浜本恵康

コンサートは年1回程度開き、5年間続ける予定。演奏した曲は録音し、貴重な音源として後世に残す。

午後6時半開演。999円。事務局 ☎082(5002)6304。